

決算認定徹底検証 市税の使い道

平成28年度決算 に関する 大綱質疑

平成28年度決算案全体に対して、疑問や不明点を明らかにするため、市に説明を求めました。その中から、主なものを掲載します。

不燃物の収集

問 真壁、大和地区は、岩瀬地区と同様に不燃物の区分けをしてから1年がたつが、市の収支の増減はどのように変化したのか。

答 平成27年度の真壁、大和地区の不燃物は420トン、平成28年度は161トンで、259トン減少しました。これに伴い、リサイクルの数量が、平成27年度の474トンから566トンとなり、92トン増加しました。リサイクル売却代は、平成27年度からは62万3582円増加し、各地区への分別収集報奨金は、162万1300円増加しています。

ごみ処理経費に当たる筑西広域市町村圏事務組合負担金のうち、搬入割について

では、前々年度の搬入量実績によるので、28年度の不燃ごみの減少分は30年度に反映されます。搬入割の1トン当たりの単価は毎年変動しますが、29年度の単価により算出した場合、約930万円の減額になると推定されます。

問 高齢者から不便になったとの声があるが、ポイ捨てや置き去りなどの状況について伺う。

答 市指定の袋以外に入れたごみや、可燃物収集所に不燃物を置いていくとの苦情が区長、市民から寄せられています。また、件数については把握できていません。

広域隣保事業

問 広域隣保事業96万円に

ついて、相談件数と相談内容について伺う。

答 広域隣保事業生活相談事業については、相談員2名を配置し対応しています。28年度は41件の相談を受けています。

相談内容については、生活相談8件、税務相談4件、教育相談8件、事故関係12件、隣人トラブル2件、職業相談1件、その他6件です。

市営住宅の空き戸数

問 市営住宅の空き戸数が目立つが、空き家率の実態

について伺う。
また、県営岩瀬曾根アパート、県営羽黒住宅についても実態をつかんでいると思うので、空き家率について伺う。
答 市営住宅は、17住宅で360戸を管理しています。入居戸数は275戸で、空き家戸数は85戸となり、入居率は76・38%です。しかし、用途廃止を認定し、募集停止をしている住宅が6住宅75戸あります。募集を行っている住宅は11住宅285戸で、入居戸



市営犬田住宅（桜川市犬田地内）

数は234戸、空き戸数は51戸となり、入居率は82・1%です。用途廃止決定住宅で募集停止をしている住宅にも、停止以前から入居し、移転、移住をしていない戸数が41戸あり、入居率は54・66%です。また、県営岩瀬曾根アパートの戸数は48戸、入居戸数は40戸です。県営羽黒住宅の戸数は20戸で、入居戸数は6戸です。現在、入居者募集はしていません。

放射性物質検査

問 大和中央公民館で放射性物質検査が行われた。ほとんど基準超えはなかったが、8件だけ基準を超えるものがある。その内容について伺う。

答 今回の基準超えの検体は全て一般食品（100ベクレル以下）で、市外が6件で採取したコシアブラ2件（123、168ベクレル）、チタケ3件（1656、2529、171ベクレル）、イノシシ肉（156ベクレル）です。



LED交換された防犯灯（大和地区）

防犯対策事業

問 現在、市内の防犯灯のLED化が進んでいるが、進捗状況について伺う。

答 計画時の地区管理の既存防犯灯数は3606灯あり、平成27年度の実績が758灯、28年度は1147灯をLEDに交換し、LED化率は52・83%です。平成29年度の申請状況は、現在958灯あり、この分を交換するとLED化率は79・4%で、残り74

3灯となり、順調に進めれば30年度で完了できると考えています。

学校活性化非常勤講師配置事業

問 学校活性化非常勤講師配置事業の内容について伺う。

答 この事業は、担任とのチームティーチングによる、きめ細かな教育指導と効果的な事業を展開するために、国の少人数指導加配置措置のない小中学校に市費で非常勤講師を配置するものです。特に、個人差の大きくなりがちな教科学習の際に、担任と一緒に児童への学習支援を行っています。教員が2名になることで、支援する児童の人数が約半分になるので、よりきめ細かな指導が可能となり、児童のつまずきに即対応でき、児童の学習意欲も高まると考えています。

英語指導助手業務委託

問 平成28年度は6人の英語教師が派遣されているが、

効果等について伺う。

答 効果としては、例えば英語の成績が上がったなど数字だけではあらわせないものがあると考えています。英語指導助手を配置して、子どもたちが外国の人と積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢の育成、あるいは外国の言語、文化、生活に触れることは、グローバル社会の中

で活躍できる児童生徒を育成するために、必要だと考えています。

教育支援センター「やぐらの広場」

問 教育指導事業の中の、「やぐらの広場」とあるが、現在の対応者は何人いるのか。また、27年度と比べて減少しているのか。

答 「やぐらの広場」につい



岩瀬地区まで延伸された広域連携バス（岩瀬庁舎）